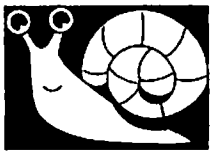
玉川教会たより

NO. 481
2016年5月15日
町田市玉川学園4－5－32
TEL. 042－732－9321
FAX. 042－732－9337
Eメール　chiyosi514@yahoo.co.jp

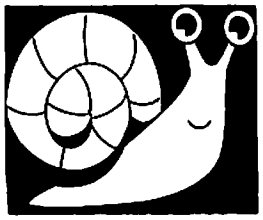
5月11日礼拝説教抜粋　　【平和を得るために】　ヨハネ福音書16：25～33

▼『ごんきつね』や『おぢいさんのランプ』で知られる新美南吉に、『デンデンムシノカナシミ』という掌編があります。
　全文カタカナ書きですが、ひらがなに換えて一部引用します。冒頭部分と、結末の部分です。と言いましても、これで全体の半分近い分量になります。



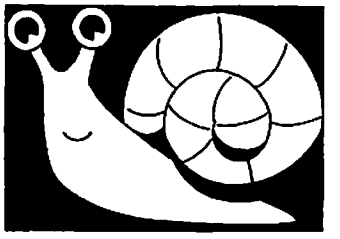
いつぴきの　でんでんむしが　ありました。
あるひ　その　でんでんむしは　たいへんな　ことに　きがつきました。
「わたしは　いままで　うつかりして　いたけれど、わたしの　せなかの　からのなかには　かなしみが　いつぱいつまつて　いるではないか」
このかなしみは　どうしたら　よいでせう。
でんでんむしは　おともだちの　でんでんむしのところに　やつていきました。
「わたしは　もう　いきていられません」
と　その　でんでんむしは　おともだちに　いいました。
「なんですか」と　おともだちの　でんでんむしは　ききました。
「わたしは　なんといふ　ふしあはせな　ものでせう。わたしのせなかの　からのなかには　かなしみが　いつぱい　つまつているのです」
と　はじめの　でんでんむしが　はなしました。
すると　おともだちの　でんでんむしは　いいました。
「あなたばかりでは　ありません。わたしのせなかにも　かなしみはいつぱいです。」
　… 中略 …
　かうして、おともだちを　じゆんじゆんに　たづねて　いきましたが、どの　ともだちも　おなじことを　いふのでありました。
　とうとう　はじめのでんでんむしは　きがつきました。
　「かなしみは　だれでも　もつているのだ。わたしばかりでは　ないのだ。わたしは　わたしのかなしみを　こらへて　いかなきや　ならない」
　そして、この　でんでんむしは　もう、なげくのを　やめたのであります。

▼短い短い作品ですが、実に雄弁な作品です。共感を覚えずにはいられません。
　でんでんむし、むしろ人間は、誰もが心に悲しみを抱いて生きています。
　山本周五郎は「悲しみによる連帯」という表現を採っています。裏長屋に住む貧しい人々には、共有する目的意識や、楽しみはありません。彼らが共有し、それ故に連帯し慰められるのは、悲しみなのです。そんな風なことを繰り返し言っています。



▼私たち玉川教会は、信仰共同体です。礼拝共同体です。そして、私たちには共有する喜びも、目的意識もあります。大変に恵まれたことです。
　しかし、私たちには、もう一つ共有するものが存在します。
　それが悲しみではないでしょうか。旧約聖書を読み、考えさせられるのは、旧約の民に与えられた苦難の大きさです。神さまの民、神に選ばれた特別の民ならば、もう少し、幸運なことがあって良いのではないか　→ 2頁へ

実際は不運不幸の連続ではないかと、そんなことを思わされます。
このことは、旧約聖書後のユダヤ人の歴史にも当て嵌まります。
そして、イエスさまにも、初代教会の歩みにも重なります。
そうして私たち玉川教会の歩みにも重なるのではないでしょうか。
玉川教会の礼拝堂には悲しみが溢れています。そのことを伝えに、隣の教会に行きましょうか。お隣の教会の礼拝堂にも悲しみがいっぱいでしょう。



▼３３節をご覧下さい。
『これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって
平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。
しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている』
『あなたがたには世で苦難がある』
このことを、イエスさまはご存じです。『あなたがたは悲しむ』そのことを、イエスさまはご存じです。
悲しんではならないとは言われません。悲しむのは当然なのです。人間は悲しいのです。
しかし、でんでんむしが、「かなしみは　だれでも　もつて　いるのだ。わたしばかりでは　ないのだ」と気付いて、「わたしは　わたしの　かなしみを　こらへて　いかなきや　ならない　そして、この　でんでんむしは　もう、　なげくのを　やめた」
このように、私たちは、私たちの悲しみをご存じの方に出遭い、慰められるのです。もう悲しむ必要はありません。もう悲しんではいられません。

▼２７節。
『父御自身が、あなたがたを愛しておられるのである。あなたがたが、
わたしを愛し、わたしが神のもとから出て来たことを信じたからである』
悲しむ者のために悲しむことは、既に愛です。愛の業です。
でんでんむしのように、悲しみを抱えて生きる惨めな存在のために、悲しんで下さるのが、イエスさまでした。

▼私たちは背中に悲しみを背負って生きています。しかし、その悲しみでもって、イエスさまに出会い、信仰の友に出会い、救いを見出すことも出来ます。
私たちの人生は、悲しみによって貫かれています。私たちの信仰そのものが悲しみによって貫かれています。しかし、その悲しみこそが、十字架の言葉によって、清められ、栄光へと変えられるのです。
十字架の言葉を見上げる者には、信仰による連帯が与えられます。十字架の悲しみによる連帯こそが、他のどんな連帯よりも、慰めと喜びに満ちた連帯へと変えられるのです。

５～６月の予定

５月
15日（日）ペンテコステ
礼拝後、祈りの会、お茶の会を持ちます。
22日（日）壮年会例会
石川耕一郎兄の発題。
29日（日）西東京教区総会

６月
12日（日）子どもの日
ＣＳとの合同礼拝。
24日（金）教団創立記念日
富士見町教会で、祈りの会があります。
詳細は、掲示板に。
26日（日）
特別伝道礼拝
チャペルコンサート
詳細は、掲示板に。